

# 鳴神山



柳津小学校  
学校だより

2016. 7. 11

No. 9

文責 川井 孝寿

## 授業参観・学級懇談会、ありがとうございました！

8日（金）の授業参観では、お忙しい中にもかかわらず、ご来校くださりまして誠にありがとうございました。

学期末を迎えたお子さんの様子はいかがだったでしょうか。担任の発問に勢いよく挙がる手、友だちと生き生きと話し合う眼差し、そして真剣に考える横顔に、この約3ヶ月間の大きな成長を実感することができたのではないのでしょうか。

106日間の1学期も残すところあと9日となりました。これまでの学習のまとめをしっかりと行い、気持ちよく夏休みを迎えさせたいと考えております。子どもたちの頑張りを引き続き応援いたしますよう、よろしくお願いいたします。



## 安全な登下校にご協力を！

梅雨による連日の雨天のためか、最近、自家用車による送迎をよく見かけます。体調がすぐれなかったり、何らかの事情でバスに乗り遅れてしまったりした場合にはやむを得ないこともあるかと存じますが、『雨が降っているから』『ちょっと荷物が多いから』などの理由での送迎は、できるだけお控えいただきたいと思っております。

と、申しますのも、先日、給食センター側の入り口付近で、子どもを送って来た車同士が出会い頭に衝突しそうになった場面がありました。幸い事故には至りませんでした。近くには徒歩で通学中の子どもたちがいました。万が一事故が発生していれば、巻き込まれる可能性も否定できません。そもそも、中学校の裏側の細い路地は、子どもたちの通学時間帯に交通規制がある（一方通行である）ことをご存じでしたか。

また、集団登校という徒歩通学は、『集団』によって安全を確保している面があります。送迎によって班員が少なくなるということはその安全性が保たれなくなります。もし、登校班の友だちが全て送迎されて、自分のお子さんが一人ぼっちで歩くことになっていたら、心配ではありませんか。

そこで、学校として次の二つのお願いをいたします。

1. 子どもたちの体力向上、安全確保という点から、できるだけ集団登校をさせてください。
2. どうしても送迎が必要な場合は、正門側の駐車場で乗降させてください。



急に勝手なお願いをして恐縮ですが、子どもたちの安全な登下校に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 親としての自覚？～自分はどんな親として映っているのでしょうか？～

以前、あるお寺のご住職から「四苦八苦」の法話をいただいたことがございました。「四苦八苦」の由来をご存じでしたか。もともとは仏教用語で「四苦」とは「生老病死」を意味し、そこにさらに「愛するものとの分かれ」「憎むべきものとの出会い」「欲しいものが手に入らない苦しみ」そして「ものや気持ちに対する欲望」の「四苦」を加えたもので「八苦」を表しているそうです。つまり、「自分の意志ではどうにもできない」ことを「苦しみ」としているということなのだそうです。

そんな話を聴いていて、気になることがありました。それは「生」の部分についてです。確かに子どもはこの世に生を受ける際に「親を選ぶことはできない」と思いました。自分もそうでしたが、この世に生まれることさえ自分の意志ではありません。すると「うちの子どもは、私の子として生まれてどう思っているのかな？」ということがとても気になり始めました。いかがですか。そんな思いをもったことはございませんか。

そのうちに、学級の子どもたちも教師（担任）を選ぶことができないということを改めて考えるようになり、親として、また担任として、さらには子どもの手本となるべき大人として「自分はどうあるべきなのか」と考えるまでに至りました。

そして、ある一編の詩を思い出しました。アメリカの教育家ドロシー・ロー・ノルトという人の「子は親の鏡」という詩です。一言一言が大変意味深く、親としての自分を見つめるよい視点を与えてくれるすばらしい詩ですので、ここにご紹介いたします。お時間のある時に一読いただければ、幸いに存じます。

### 子は親の鏡

(アメリカ) 家庭教育に生涯を捧げた教育家  
ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる  
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない  
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
和気あいあいとした家庭で育てば、  
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる